News Release

財務省　近畿財務局
大津財務事務所

令和8年11月5日

滋賀県内経済情勢報告

（令和8年10月判断）

1．総論

【総括判断】　「緩やかに持ち直している」

項　　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→

（注）8年10月判断は、前回8年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項　目	前回（8年7月判断）	今回（8年10月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	8年度は前年度を上回る見込みとなっている	8年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	8年度は増益見込みとなっている	8年度は増益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

２．各論

【主な項目】

■ 個 人 消 費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売額は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、物価高により客単価が上昇しているものの、来店客数が減少しており、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売額は、化粧品などの売行きが好調であるほか、新規出店効果もあり、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、日用品が低調であったことから、前年を下回っている。

家電大型専門店販売額は、スマートフォンなどが好調であった一方で、パソコンなどの売上が減少しており、前年並みとなっている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車は前年を上回っており、軽自動車は前年を下回っている。

観光動向は、国内外の旅行客を中心に堅調となっている。

（主なヒアリング結果）

- 買上点数は減少傾向にあるものの、シルバーウィークによる客足の増加に加え、足下では菓子類・総菜類を中心に売上が好調となっている。（百貨店・スーパー）
- 酷暑で外出を控える動きがみられたこともあり来店客数が減少するとともに、メリハリ消費の定着により日常的な支出を抑える動きがみられ、定番商品や日配品が低調。（コンビニエンスストア）
- 節約志向の高まりにより、普段使いの化粧品等を安く抑えたいとの思いから、低価格帯商品の売行きが好調である。（ドラッグストア）
- 中東情勢の緊迫化直後には、ビニール商品等の石油由来製品の需要が増加したものの、足下では反動により売上が減少している。（ホームセンター）
- パソコンに関してはWindows10 のサポート終了に伴う更新需要が一巡したことに加えて、電子部品の価格高騰により本体価格も大きく上昇したため、消費者の買い控えが目立った。スマートフォンやタブレットで代用できることも、需要減少の要因となっている。（家電量販店）
- 人気車種を中心に納期が短縮傾向であることに加えて、節約志向により燃費性能に優れるハイブリッド車の販売が好調。（自動車販売店）
- 京都市内の宿泊価格が高騰するとともに、慢性的な混雑を避けるべく、比較的安価な滋賀県内に宿泊するインバウンドが増加している。（宿泊）
- 大河ドラマ効果を背景に、国内旅行客を中心に観光バスの利用者が増加している。（運輸）

■ 生 産 活 動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）でみると、化学などが低下しているものの、生産用機械や汎用・業務用機械などが上昇しており、生産活動は、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 半導体製造関連では、世界的なデータセンター需要の拡大により、特に北米からの受注が好調である。（生産用機械）
- 海外メーカーとの競合が激化しているものの、世界的な船舶更新需要等を背景に、船舶向けエンジン部品の受注が増加している。（汎用機械）
- 防犯意識の高まりを背景に、データセンター等の重要施設向け保安設備で需要が増加している。（電気機械）
- 自動車メーカーにおけるモデルチェンジ周期の長期化に加えて、国内マーケットが全体的に減少傾向となっていることから、軽自動車向けを中心に受注が減少している。（輸送機械）
- 価格競争が激化するとともに、殺菌作用を有する医薬品の需要が減少していることから、ドラッグストア向けを中心に一般医薬品の受注が減少している。（化学）

■ 雇 用 情 勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は足下で低下しているものの概ね横ばいで推移しているほか、法人企業景気予測調査（7～9 月期）では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

（主なヒアリング結果）

- ➢ 中途採用に苦戦していることから、足下では縁故採用にも積極的に取り組んでいる。縁故採用の場合は、事前に職場環境を理解している方が多く、定着率も高い。（金属製品）
- ➢ 慢性的に人手が不足していたことから、省人化投資を継続したことにより、足下では不足感が解消した。（化学）
- ➢ 京都方面へのアクセスが良好であることに加え、賃金格差もあることから、求職者が京都へ流れる傾向がみられ人材確保に苦慮している。（百貨店・スーパー）
- ➢ 人員不足を解消すべく、車両整備士においては積極的に外国人労働者を採用している。応募者が減少傾向にあるなか、外国人労働者は貴重な戦力となっている。（運輸）
- ➢ 土木関係学科卒の人材は取り合いとなっていることから、文系学部卒も積極的に採用している。採用活動においては、文系学部出身の先輩職員が活躍する工事現場を見学してもらうなど、応募者の不安感の払拭に努めている。（建設）

■ 設 備 投 資 「8 年度は前年度を上回る見込みとなっている」「法人企業景気予測調査（全産業）」8 年 7～9 月期

8 年度の設備投資は、全産業で 50.3%増（対前年度増減率、以下同じ。）の見込みとなっており、産業別では、製造業で 110.1%増、非製造業で 18.1%増の見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「8 年度は増益見込みとなっている」「法人企業景気予測調査（全産業）」8 年 7～9 月期

8 年度の経常利益は、全産業で 6.4%（対前年度増減率、以下同じ。）の増益見込みとなっており、産業別では、製造業で 4.8%の増益見込み、非製造業で 11.0%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数でみると、貸家などが増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 公 共 事 業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 企 業 倒 産 「件数、負債金額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を上回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」「法人企業景気予測調査（全産業）」8 年 7～9 月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455